

大腸 CT 検査が受けられるようになりました

大腸 CT 検査を受けるには

内科外来を受診して検査の予約をお取りください。

* 直接電話での検査予約はできません

* 大腸 CT 検査を実施し、病変（がんやポリープなど）が疑われた場合は、組織検査やポリープ切除のため改めて大腸内視鏡検査をすることになります。

場所：内科外来

受付時間：月～金曜日、第 1・3・5 土曜日 8:30～11:30 新患外来

※ただし消化器症状等の相談がある場合は消化器内科の予約をお取りください。

検査曜日：月・火・水・金曜日の午後実施

* 検査結果は 1 週間後に結果が出ます（検査終了後に内科の予約をお取りします）。

お問い合わせ先：052-961-2491（代表）

大腸がん検診の重要性

○なぜ「大腸がん検診」が重要なのでしょうか？

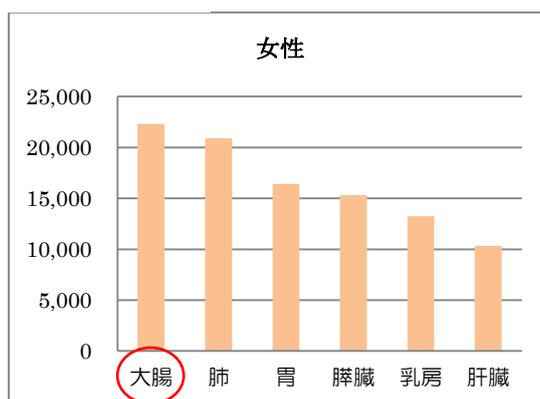
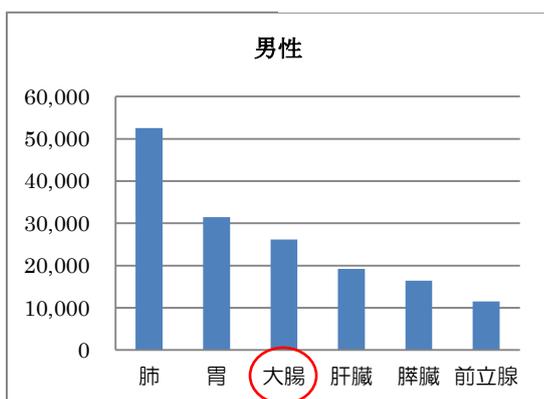
今や日本人の 2 人に 1 人が「がん」にかかり、3 人に 1 人は「がん」で亡くなる時代となりました。

中でも大腸がんの死者数は増えており、女性では第 1 位、男性では第 3 位となっています（平成 26 年人口動態統計より）。

大腸がんは早期の段階で発見できれば、ほぼ 100% 近く完治と言われていますが、早期では自覚症状に乏しいため、進行した状態で発見されるケースも多く、死者数が多くなっています。

そのため、大腸がん検診を毎年受診し、早期発見・早期治療につなげることが大切です。

臓器別がん死亡者数（2014 年）



* 国立がん研究センターがん対策情報センターデータより

大腸がん検診とは

○大腸がん検診とは、「便潜血検査」という便の検査を行うことが一般的です。便潜血検査の結果、「陽性（便に血液が混じっている）」と判定された場合は、その原因を詳しく調べるために、医療機関を受診して精密検査を受けるよう指示がでます。

（「便潜血検査」は、痔でも陽性となることがありますが、精密検査の指示がでた場合は、自己判断せずに検査を受けることをお勧めいたします。）

初めから大腸の精密検査（大腸内視鏡検査または大腸CT検査）を実施することもできます。

当院における大腸精密検査受診率と結果

○「大腸精密検査」の受診率（当院）

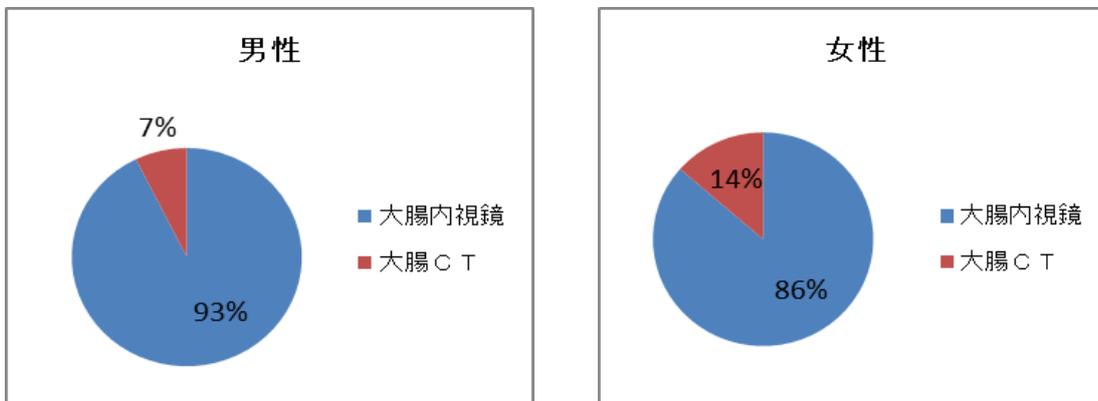
健診の便潜血検査が陽性で、「精密検査を受けましょう」と勧められても、大腸の精密検査は「痛い」「苦しい」「恥ずかしい」などの理由で精密検査を受けない方が多く、平成27年度当院健診において大腸精密検査を受診した方は約40%（大腸内視鏡検査：91%、大腸CT検査：9%）という結果になっています。

しかし、そのうちの2.6%の方に大腸がんが見つかりました。将来がんになる可能性がある腺腫というポリープを含めた「大腸ポリープ」は35.3%の方に見られています。

○検査別割合、精密検査結果

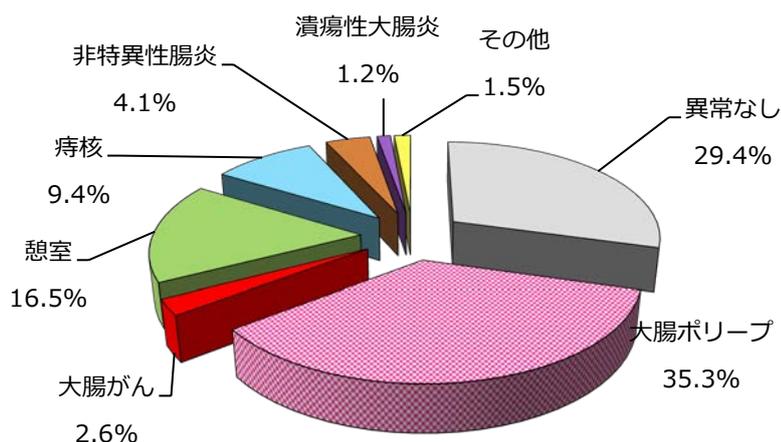
「大腸内視鏡検査」・「大腸CT検査」を受診された方の割合です。

女性では、大腸CT検査を受けられた方の割合が男性の2倍となっています。



平成27年度大腸精密検査所見割合

（中日病院の健診受診者）



大腸CT検査とは

○新しい大腸精密検査「大腸CT検査」とは

肛門から炭酸ガスを入れて大腸をふくらませ、CT撮影を行います。撮影したCTの画像を解析して、内視鏡でみたような立体的な画像を映し出し、大腸がんやポリープの有無を調べる検査です。

大腸内視鏡検査と比べると、苦痛が少なく時間も短いため、今まで大腸精密検査をためらわれていた方や大腸がんが心配な方、まずは大腸CT検査を受けてみませんか。

○大腸CT：(検査風景)



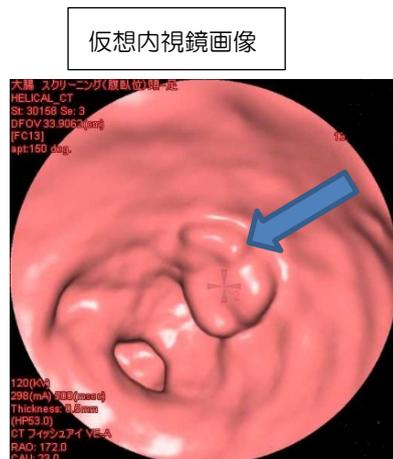
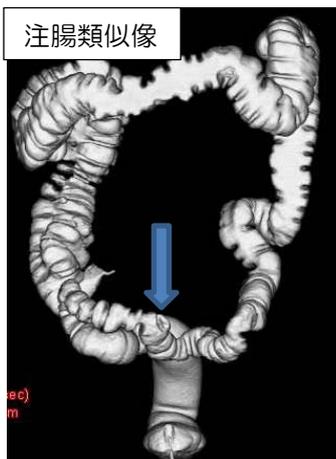
お腹の動きを止める注射を打った後、横向きに寝て、直径1cm弱の柔らかいチューブを肛門から5-10cm程度挿入し、炭酸ガスを注入します。大腸がきれいに映し出せるよう、お腹がはった状態にします。



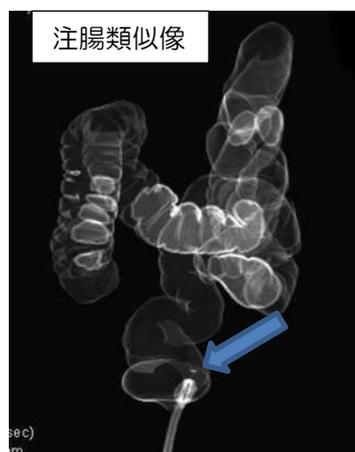
仰向けと、うつぶせの状態です。10分程度で終了します。
注入された炭酸ガスは、自然に吸収され、お腹の“はり”はなくなります。

大腸 CT 画像

【S状結腸がん（早期）】



【直腸ポリープ】



禁忌事項

○大腸 CT 検査が受けられない方・・・

- ・前処置（前日に下剤などが正しく服用できない方）ができない方
- ・妊娠中の方（その可能性のある方）
- ・大腸ポリープ切除直後、腸管の手術直後
- ・腸閉塞（イレウス）が疑われる方
- ・直腸脱や重度の内痔核をお持ちの方（主治医にご相談の上でお申込みください）
- ・腹部にペースメーカー埋め込みされている方（主治医にご相談の上でお申込みください）

* 上記以外にも治療中の疾患がある方は、主治医にご確認の上、検査をお申込みください。

大腸精密検査の比較

○当院でできる大腸精密検査には「大腸内視鏡検査」と「大腸CT検査」があります。

	大腸内視鏡検査	大腸CT検査
	<p>内視鏡を肛門から入れて、大腸内部を直接観察する</p> 	<p>炭酸ガスを肛門から入れて大腸を広げ、CT撮影し3次元画像で調べる（*注）</p> 
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一部を取って調べ、ポリープの切除を行うことができる ・平らな病変や6mm以下の小さなポリープの発見が可能である 	<ul style="list-style-type: none"> ・検査時間は10分程度 ・痛みがほとんどない ・下剤の量が少ない ・腹部のCT撮影も行うため、肝臓・胆のう・膵臓・腎臓などの病気が見つかる場合がある
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・検査の時に苦痛を伴うことがある。 ・ひだや曲がり角の裏などの死角となる部分の病変は見つけにくい。 ・狭窄部位などがあると検査ができない ・下剤の量が多め ・まれに腸を傷つけることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の検査やポリープ切除などの治療ができない（ポリープやがんが疑われる場合、改めて内視鏡検査を受ける必要がある） ・平らな病変や6mm以下の小さな病変を見つける能力は内視鏡より劣る ・最低限の医療X線被ばくがある
こんな方にお勧め	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に大腸がんになった人がいる方 ・過去に大腸ポリープを指摘された方 	<ul style="list-style-type: none"> ・抗血栓薬を内服中の方 ・過去に大腸内視鏡の挿入が困難だった方 ・高齢の方などで、大腸内視鏡検査がづらい方

（*注：前投薬による副作用、炭酸ガス注入による穿孔などが主な偶発症として挙げられています。）